

平成17年度 試験研究(事前)評価整理表

整理表1

試験研究機関名 林業研究センター

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント	評価結果の反映状況(予算要求・手法・その他)
	施策目標	研究課題分類				開始	終了				
1	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	マツノサイセンチュウ抵抗性マツの育種と効率的な増殖に関する研究	マツノサイセンチュウ抵抗性マツの育種と効率的な増殖に関する研究	本県産抵抗性マツと他の抵抗性マツとの交配による新たな個体の作出を行う。抵抗性マツのより簡易な増殖法を開発する。	平成17年までにアカマツ5個体、クロマツ2個体の抵抗性マツを選抜したので、他の個体との交配による新たな個体の選抜と、その増殖法を開発を行う。	18	22	A	公益性が高く、波及効果も大きいと考えられるため、優先的に実施すべきである。	重要な研究であり、研究手法も着実であると考えられるため、優先的に実施することを望む。	予算要求について ・シーリングにより当初計画から減額するが、機関として重点的に取り組む。 手法等について ・より抵抗性のあるマツ山行き苗木を、早期に生産できるよう効率的な交配と選抜を行う研究を積極的に進める。
2	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	花粉が飛散しないスギの育種と効率的な増殖に関する研究	スギ雄性不稔個体の育種と早期育成法の開発	林業面からの花粉症対策として、花粉の飛ばないスギの育種を確立し、その苗木を早期に提供する。	平成17年までに本県産で花粉を飛ばさない(雄性不稔)スギ3個体を発見したので、多様性の確保のため更に探索を続ける。また、雄性不稔の遺伝を確認すると共に、雄性不稔のスギ苗木の割合を高める。	18	22	A	公益性が高く、波及効果も大きいと考えられるため、優先的に実施すべきである。	本研究では全国的に見ても、先進的研究実績を残しており、研究計画通り優先的に実施することを望む。	予算要求について ・シーリングにより当初計画から減額するが、機関として重点的に取り組む。 手法等について ・花粉の飛ばないスギ山行き苗木を、早期に生産できる育成法の開発と、県内に適応する花粉の飛ばないスギの作出を積極的に進める。
3	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	環境に配慮した森林病害虫対策に関する研究	ナラ類集団枯損跡地の植生推移の基礎調査	カノナギキムシの集団枯損被害地の植生状況を経年調査し、被害跡地の復旧法の検討に資する。	カノナギキムシの集団枯損被害地においての本木類を中心とした植生状況を経年調査し、林相の回復状況を把握することで、復旧対策の方針決定基準を明らかにする。	18	22	B	被害が拡大している状況であり、被害跡地の対策を検討するうえで必要な調査であるため、計画どおり実施すべきである。	緊急性のある課題であり、優先的に実施すべき課題であると考え、既に進められている防除技術開発に基づく対策が植生にどのような影響を与えるかも、研究いただきたい。	予算要求について ・シーリングによる規模縮小では、研究の実施が困難なため、18年度の実施は見送る。
4	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	付加価値が高いきのこ類及び山菜類の探索と育種に関する研究	山菜・きのこ類の薬理効果に関する研究	山菜やきのこ類の薬理効果等の優位性を把握し、付加価値向上を図ることにより、山菜・きのこ類の振興に結びつける。	メラノマ細胞や肥満細胞等の疾病モデルを用いて本県産の栽培可能なきのこ・山菜の薬理効果を探索するとともに、効能物質を特定する。また、効能物質を多く含む系統の選抜等も行う。	18	22	A	研究ニーズが高く、波及効果も大きいと考えられるため、優先的に実施すべきである。	健康に関心を持つ人が増えています。いわゆる健康食品ブームですが、日常の食事のなかからそれらを摂取すべきことは言うまでもないことなので、早急に成果を期待します。	予算要求について ・シーリングによる規模縮小では研究の実施が困難であるため、実施を見送る。 手法等について ・来年度の三県共同研究(食品機能性を有する特用林産物の選抜及び加工技術の開発(仮称))に部分的に組み入れて実施する。
5	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	県産木材の高次加工技術の開発に関する研究	圧縮処理等を活用した県産材の性能向上技術の開発	木材は自然材料であるため、無垢材のままでは利用可能な条件に限られる。また、寸法安定性や難燃性能等を付与する高付加価値化技術は数多く開発されているものの、設備投資を含めたコストの問題が実用化への障壁となっている。したがって、県産材の用途拡大に向け、簡便な処理で性能向上を図ることができる高付加価値化技術を開発する。	常温下での圧縮処理をベースとした、難燃化、寸法安定化等の処理技術を開発し、開発した製品の性能評価を実施する。なお、技術開発にあたっては、既存施設の活用を基本とするとともに、材料については間伐材等低位利用材の活用を考慮する。	18	22	B	付加価値の高い木材製品を低コストで製造可能とすることで、木材の積極的利用が期待できるため、計画どおり実施すべきである。	木材に圧縮処理等を実施することにより新たな価値創出を目指すことは方向性として良いと思うが、既存施設の活用等、コストパフォーマンスを優先するとともに、研究ニーズを常に把握しながら試作品の作成等、研究を進めていく。	予算要求について ・シーリングにより当初計画から減額する。 手法について ・既存施設の活用等、コストパフォーマンスを優先するとともに、研究ニーズを常に把握しながら試作品の作成等、研究を進めていく。